ミカンハダニ

○被害と発生生態

年間を通してカンキツに寄生する。葉や果実等を吸汁し、白っぽい痕を残す。春から夏にかけては主に葉裏に寄生し、激発した場合、葉全体が白っぽくなり、光合成が阻害される。９月以降に発生するいわゆる秋ダニは果実に多く寄生し被害をあたえる。多発すると果皮は白っぽく色が抜け、ツヤがなくなり外観品質を落とす。収穫後、貯蔵中に増殖し、被害を拡大させることもある。

休眠性はなく、気温が８℃以上になればいつでも増え、年間１０世代以上を繰り返す。増殖に好適な温度は 25～28℃で気温の上昇とともに１世代の期間は短くなる。

増殖のスピードが速く、多くの世代を繰り返すため、薬剤抵抗性が発達しやすい。

○防除方法

（ア）耕種・物理的防除

・天敵類による密度抑制が期待できるので、害虫防除が過剰にならないようにする。

（イ）薬剤防除

・抵抗性の心配がないマシン油乳剤をできるだけ利用する。特に冬期又は春期のマシン油乳剤散布は、６月まで発生が抑えられるので必ず実施する。

・防除の目安は、寄生葉率３０～４０％以上、1 葉当たり雌成虫数が 0.5～1 頭程度である。

・多くは葉裏に寄生しているので、薬剤は葉裏に十分かかるように散布する。

・薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用は避ける。

他の害虫防除薬剤散布後に多発する場合がある。特に８月下旬のジメトエート散布後は果実に被害を与える秋ダニの増殖時期であり注意が必要である。

ミカンハダニ

カンキツの被害